

IAHR World Congress 2019への参加報告

川村 里実

1. はじめに

2019年9月1日から6日にかけてパナマで開催されたIAHR World Congress 2019（国際水圏環境工学会2019（以下、IAHR World Congress 2019））に筆者が参加しましたので報告します。

2. IAHR World Congress 2019の概要

IAHR World Congress 2019は2年に1度開催され、世界各国の水工学に関わる研究者や技術者が参加し、水に関する科学および工学の分野における研究成果の発表や情報交換を通して、世界中の水関連災害や水問題に対して議論や情報共有を行う国際学会です。38回目の今年はパナマシティ内のRIU PLAZA PANAMA HOTELで開催されました（写真-1）。

今回の会議では、「Water – Connecting the World（水－世界をつなぐ）」をメインテーマとして、主に「Hydraulic Structures（水理構造物）」、「Port and Coastal Engineering（港湾および海岸工学）」、「Hydro-Environment（環境水理）」、「Water Management and Hydroinformatics（水管理と水理情報学）」、「River and Sediment Management（河川および土砂管理）」および「Climate Change and Extreme Events（気候変動および極端現象）」の6つのサブテーマに焦点をあてて開催され、750編の発表がありました。参加者は54カ国から922名で、多い順に中国、パナマ、日本、アメリカ、ペルー、コロンビア、韓国などからの参加がありました。

また、当学会のテクニカルツアーでは、パナマ運河を通過するツアーに参加しました（写真-2）。パナマ運河は、大西洋と太平洋をつなぐ重要な国際運河です。水位差のある運河を閘門で仕切り、通過する船の水位を閘門の開閉によって上下させることによって、安全で効率的な水運が可能となっています。このテクニカルツアーでは、このような水技術の応用を実際に体験することができました。



写真-1 学会会場



写真-2 テクニカルツアー（パナマ運河）

3. IAHR World Congress 2019における寒地土木研究所からの発表

筆者は、「A Hydraulic Model Experiment on the Relationship Between Sediment Transport Characteristics and Changes in Watercourses Around a Low-water Revetment or Spur Dikes（低水護岸や水制工周辺の土砂移動と流路変動の特性に関する水理模型実験）」と題して口頭発表を行いました（写真-3）。本研究は、札内川や音更川のような急流河川において、堤防侵食の防護のために部分的に設置される低水護岸や水制工によってその下流の河岸侵食

や流路変動にどのような影響を与えるのかについて水理模型実験と数値シミュレーションで検討したものです。参加者からは、実験条件や河床材料、また、対象としている実河川についての質問がありました。



写真-3 口頭発表の様子（筆者）

4. おわりに

本国際会議では、多くの水関連災害や水問題に対して、参加した世界各国の水工学に関わる研究者や技術者によって熱心に議論や情報共有が行われました。国

際的にも水災害への関心が高まりつつあることを実感しました。

また、本国際会議の会場にて、2020年9月に札幌で開催されるIAHR-APD 2020（国際水圏環境工学会－アジア環太平洋会議 2020）のLocal Organized Committee（札幌大会実行委員）として国立大学法人北海道大学清水康行教授と一般財団法人北海道河川財団山本太郎氏とともに広報や情報収集を行いました（写真-4）。日本から参加された方々にもパンフレットの配布などをご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。



写真-4 IAHR-APD 2020 札幌開催の広報



川村 里実
KAWAMURA Satomi

寒地土木研究所
寒地水圏研究グループ
寒地河川チーム
主任研究員
博士（工学）